

論文の内容の要旨

氏名：萩原 謙

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：Prevalence of preoperative asymptomatic deep vein thrombosis in patients undergoing elective general surgery for benign disease

（一般外科手術を受ける良性疾患患者における術前の無症候性深部静脈血栓症の有病率）

【背景】

深部静脈血栓症（DVT）に続発する肺血栓塞栓症は、一般外科手術の致命的な合併症である。悪性疾患は手術後の全身的な炎症反応だけでなく悪性疾患自身が凝固亢進と関連しているため、術後に血栓予防が推奨される。さらに悪性疾患は静脈血栓塞栓症（VTE）のリスク上昇と関連するためDVTが術前から存在する可能性も指摘されている。消化器癌の術前の無症候性DVTの有病率は4.4～13.5%と報告されているが、どの研究も癌の病期と術前DVTの発生は関連しておらず、すべての手術患者に起こりうることが示唆される。しかしながら、一般外科、特に良性疾患の術前DVTの有病率とそのリスク因子に関する検討は十分にされていない。一般外科手術患者の術前の無症候性DVTの有病率を調査し、その正確な有病率とリスク因子を明らかにすることを本研究の目的とした。

【対象と方法】

本研究は2011年1月～2020年9月に取手北相馬保健医療センター医師会病院で一般外科手術を予定し、DVTの術前スクリーニングとして下肢静脈超音波検査を手術8週間以内に施行された患者を解析対象として後ろ向きに検討した。術前の無症候性DVTの有病率と特徴、リスク因子、臨床経過を評価した。

【結果】

解析対象の1512例のうち、161例（10.6%）（悪性83例（13.7%）、良性78例（8.6%））に、術前に無症候性DVTを認めた。141例（88%）が末梢型、20例（12%）が中枢型であった。術後の症候性VTEを2例（0.013%）に認めた。多変量解析で高齢（70歳以上）[オッズ比 6.40（95%CI 3.77-10.87）、 $p < 0.001$]、女性[オッズ比 2.39（95%CI 1.63-3.49）、 $p < 0.001$]、貧血（ $Hb < 11.8 \text{ g/dL}$ ）[オッズ比 3.03（95%CI 2.04-4.50）、 $p < 0.001$]が術前の無症候性DVTと有意に関連していた。高齢のオッズ比が最も高く、加齢とともに上昇した。一方、悪性疾患はリスク因子ではなかった[オッズ比 0.77（95%CI 0.52-1.16）、 $p = 0.21$]。

【結論】

本研究は、一般外科手術患者の術前の無症候性DVTの有病率は、良性疾患でも悪性疾患と同様に高いことを示した。良悪性にかかわらず、特にリスク因子を持つ一般外科患者では、術前に無症候性DVTを有する可能性を念頭に置いた対応が必要である。